エコアクション２１

環境経営レポート

【 ２０２３年 4月 ～ ２０２４年 3月 】

環境経営方針

１．組織の概要

２．対象範囲・実施体制図

３．運用期間の目標とその実績

４．環境経営計画と取組結果の評価

５．環境関連法規等の遵守状況確認・評価、違反・訴訟等の有無

６．代表者による全体評価と見直しの結果

７．次年度以降の目標と取組内容

発行日 ： ２０２４年　6月 30日

日本データリンク株式会社

環境経営方針

《 基本理念 》

日本データリンク株式会社は、全ての事業が環境に何らかの影響を与えていることを認識した上で企業活動の中で環境への配慮を行うだけでなく、蓄積した技術・知識をお客様に提供することをとおして環境保護に貢献することが、IT 企業としての社会的な責任であると考えます。

そして、全従業員がこの責任を理解し、環境保全に配慮した活動を継続的に改善実施して行きます。

《 行動指針 》

基本理念を具現化するために、環境マネジメントシステムを構築し、継続的な環境負荷の低減に取り組みます。

環境への取り組みとして、特に次の事項に取り組みます。

・CO2 排出量の削減（電気使用量の削減）
・省資源（用紙の削減）
・廃棄物の分別、削減、リサイクル
・グリーン購入の推進

環境に関する法律・規則・協定を遵守します。

環境マネジメントシステムの内容を全社員に周知徹底し、環境保全に対する意識の向上に努めます。

環境経営方針は、一般に公開します。

制定日　2010 年 10 月 5 日
改訂日　2018 年 10 月 1 日

日本データリンク株式会社
代表取締役
金森 基昭

1．組織の概要

◆ **事業所名及び代表者氏名**

日本データリンク株式会社

代表取締役　金森 基昭

◆ **所在地**

東京都豊島区池袋 2-14-4　池袋西口スカイビル 4F

◆ **環境管理責任者氏名・担当者連絡先**

環境管理責任者　：　総務部　課長代理　逸見 浩之

担当者　：　総務部　宮部 博美

連絡先　：　TEL　03-5396-3467　　FAX　03-5396-0967

E-mail　soumu@ndl.co.jp

◆ **事業活動の内容**

各種ビジネスアプリケーションの受託開発及びシステム運用管理

◆ **事業の規模**

活動規模	2021 年度 (2021/4～2022/3)	2022 年度 (2022/4～2023/3)	**2023 年度 (2023/4～2024/3)**
売上高（百万円）	1,253	1,260	**1,244**
従業員数（人）	80	76	**76**
床面積（㎡）	184.38	184.38	**184.38**

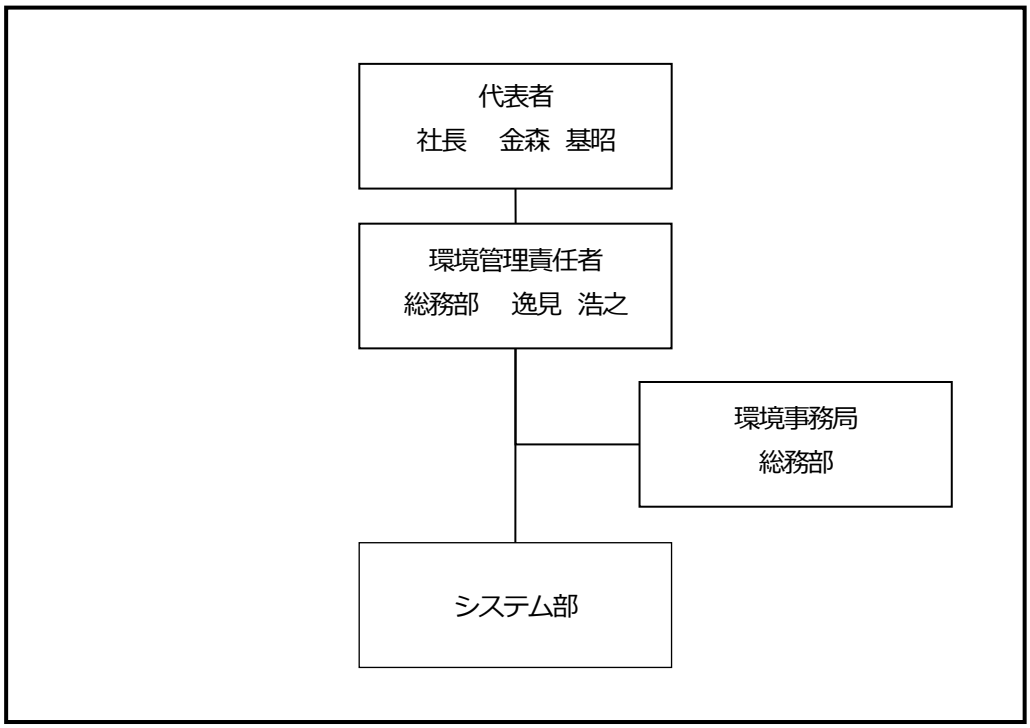
2．対象範囲・実施体制図

◆ **対象範囲**

対象組織　：　池袋本社

対象活動　：　当社の全活動

◆ 実施体制図及び役割・責任・権限



	役割・責任・権限
代表者	* 環境経営に関する統括責任 * 取組を適切に実行するための資源（人・もの・金）を用意 * 環境管理責任者を任命し、実施体制を決定 * 代表者による経営における課題とチャンスの明確化 * 環境経営方針の策定・見直し * 環境経営目標・環境経営計画書を承認 * 代表者による全体の評価と見直し・指示を実施 * 環境経営レポートを承認
環境管理責任者	* 環境経営システムの構築・実施・管理 * 環境関連法規等取りまとめ表を承認 * 環境経営目標・環境経営計画書を確認 * 環境経営の取組結果を代表者へ報告 * 環境経営レポートを確認 * 環境関連の外部コミュニケーションの窓口
環境事務局	* 環境管理責任者の補佐 * 環境への負荷及び環境への取組状況の自己チェックを実施 * 環境関連法規等取りまとめ表の作成および遵守評価を実施 * 環境経営目標・環境経営計画書原案を作成 * 環境経営の実績集計 * 環境経営レポートの作成・公開 * 全従業員に対する教育訓練を実施
全従業員	* 環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 * 決められたことを守り、自主的・積極的に環境経営へ参加

3．運用期間の目標とその実績

環境経営目標	<2021 年度> 2021 年４月～ 2022 年３月	<2023 年度> 2023 年４月～ 2024 年３月		達成状況
	基準	目標	実績	
1．CO2 排出量削減 上段：電気使用量(kWh) 下段：CO2 排出量(kg-CO2)	22,608 10,196.21	22,460 10,129.46	**22,065** **9,951.315** **【目標比 98.2%】**	○
2．用紙使用量削減 用紙使用量(枚)	19,896	18,900	**18,604** **【目標比 98.4%】**	○
3．廃棄物排出量削減 廃棄物排出量(kg)	155.0	138.0	**123.0** **【目標比 89.1%】**	○
4．グリーン購入推進	購入分の 85.7% (48 品/56 品中)	購入分の 86.5%	**購入分の 77.6%** **(45 品/58 品中)** **【目標比 89.7%】**	△
5．環境マインドを持つ社員の養成	・教育(年１回) ・エコライフチェック (自己評価)	・教育(年１回以上) ・エコライフチェック (自己評価)	**・年２回の教育** **・エコライフチェック** **(自己評価)**	○
6．働き方改革の推進 平均残業時間削減(h)	206.2	145.0	**130.9** **【目標比 90.3%】**	○

＊ 達成状況の凡例【 1.～4．○：目標達成　△：目標未達成率 10%未満　×：目標未達成率 10%以上 】
【 5．6．○：目標達成　△：実施したが目標未達成　　×：未実施 】

【注記】

＊ 1．について ： CO2 排出係数は下記で計算しています。
《 0.451kg-CO2/kWh（東京電力エナジーパートナー 2021 年度 調整後排出係数）》

＊ ガソリンは使用していないため、目標設定しておりません。

＊ 化学物質は使用していないため、目標設定しておりません。

＊ 水の使用は僅かであり、かつテナントとしては数量把握困難のため、目標設定しておりません。

＊ 5．について ： 弊社社員の約９割は、顧客先に常駐でのソフトウェア開発業務が主であるため、
「自らが生産・販売・提供する製品及びサービスに関わる環境経営目標」として設定しております。

4．環境経営計画と取組結果の評価

環境経営計画	取組結果の評価 (2023 年 4 月～ 2024 年 3 月)	取組結果の分析 問題・今後の方向等
1．CO2 排出量削減　（電気）		
①空調温度管理の徹底 [夏季] 26～28℃ クールビズの実施（5/1～9/30） [冬季] 22～24℃ ウォームビズの実施（11/1～3/31）	○	・クールビズ期間は、原則として冷房は 26～28℃とし、扇風機を併用することで空気循環の効率化を図った。 ・ウォームビズ期間は、室内の気温が 22℃程度になるよう、設定温度をこまめに調整した。
②照明を全体の 50%程度消灯 ・無人エリアの消灯 ・昼休み時間の一部消灯	○	・室内を 8 ブロックに分割し、無人エリアは消灯を徹底した。 ・昼休みに業務を行うエリアを除き、昼休み時間の消灯を励行した。
③PC における節電 ・適切な電源管理 ・新規省エネ PC の導入	○	・テレワーク継続中につき、本社設置 PC は常時稼働しスリープ機能は解除する設定。 ・グリーン購入法適合のエネルギー消費効率の高い最新ノート PC を 27 台購入した。
2．用紙使用量削減		
①印刷／コピー時、両面・集約機能の積極的な活用	○	・両面使用率は全体の 11.7% ・受発注書類や客先納品資料などは両面印刷や集約印刷ができないものも多いので、印刷前レビューで内容をしっかり確認し、印刷ミスを出さないよう周知徹底した。
②無駄な印刷やコピーをしないよう注意喚起	○	・受発注業務に関しては一部取引先との間で完全ペーパーレス化が進み、印刷枚数を減らすことができた。 ・複合機の「留め置き印刷」機能を活用中。ミスプリントを減らすことができた。
3．廃棄物排出量削減		
①廃棄物分別の徹底	○	・可燃ごみのうち、広告郵便物やチラシ・使用済封筒等を「雑がみ」分別して資源化する取り組みを実施した。 ・シュレッダーの使用を控えるため、機密書類溶解処理サービス利用に向けて不要用紙の蓄積を継続した。
②ペットボトルキャップの回収	○	・一年間でペットボトルキャップ 1.33kg を回収した。 ・回収数は少ないが、今後も地道に継続していきたい。
③不要 PC の適切なリユース・リサイクル	○	・今年度はリサイクル処理していないが、不要 PC は本社内で適切に保管中。
4．グリーン購入推進		
①文房具・什器は環境配慮型商品の購入を推進	○	・購入は総務部が一括して行い、購入先は同一の通信販売会社(アスクル)を主に利用することで、グリーン購入推進を継続中。 ・物品購入数は基準年度より 3.6%増加した。
②非グリーン商品について、アスクル以外でグリーン購入が可能か調査	△	・日常的に使用する商品を除き、業務上必要な物の中にはグリーン商品がない場合もあり、グリーン購入推進の壁となっている。

5．環境マインドを持つ社員の養成 ①年 1 回以上の環境教育実施 ②実態評価（自己評価）	○ ○	・7 月と 12 月に対面での全体会議を実施（参加率 53.4%）欠席者にはレジュメ配信にて情報共有をはかった。 [7 月] SBT WB2℃ について [12 月] デコ活について(デコ活の背景/「デコ活アクション」とは) ・7 月と 2 月の 2 回、エコライフチェックを実施 [7 月:夏] 回答率 87.7%、計算上約 88.3kg の CO2 削減 [2 月:冬] 回答率 84.9%、計算上約 73.4kg の CO2 削減
6．働き方改革の推進 ①平均残業時間削減	○	・毎月の勤務表から、残業時間・残業人数を集計し、全体の平均残業時間を算出。毎月の衛生委員会でも報告した。

＊ 評価の凡例 （○：良好 △：不十分 ×：未実施）

《 エコライフチェックについて 》

2020 年度以降、全社員の 6 割がテレワークを導入し、そのうち 2 割は完全テレワークを実施しています。

社員が各家庭で生活する時間が増えることに伴い、環境経営において“家庭での CO2 排出削減”がより一層注視すべきタスクのひとつとなっています。

“エコロジー”(=環境に配慮した) で “エコノミー”(=経済的に節約する) な暮らし方をする『エコライフ』が全社員に定着するように、2020 年度から家庭での活動を再認識する機会として「エコライフチェック」を定期的に実施しています。

エコライフチェックを開始して 4 年目の 2023 年度は、前年度と同じく夏と冬の 2 回実施しました。

【取組項目】 全 20 項目

【回答方法】 ○か×で自己採点

	夏	冬
【取組期間】	7/27～8/31 のうち一日	2/8～3/8 のうち一日
【回答人数：回答率】	64 名：87. 7%	62 名：84.9%
【取組項目の達成率】	9 割以上：11 項目 6 割未満：3 項目	9 割以上：10 項目 6 割未満：2 項目
【計算上の CO2 削減量】	約 88.3kg（約 196kWh ※1）	約 73.4kg（約 163kWh ※1）

※1 CO_2 排出係数を 0.451kg-CO_2/kWh とした場合

全 20 項目のうち通年取り組める 16 項目について、2022～2023 年度の 4 回分の達成率を比較したところ、次のような結果になりました。冬になると達成率が上がる項目、逆に下がる項目など季節による傾向が見えて興味深いです。

全項目の達成率平均を比較すると、僅かずつですが毎回増加していることがわかりました。

（詳細は次ページの表を参照）

取組項目	達成率			
	2022 夏	2022 冬	2023 夏	2023 冬
ご飯やおかずを残さず食べた。	97%	97% →	100% ↑	100% →
部屋を出る時は、明かりを消した。	99%	95% ↓	98% ↑	98% →
タオルでよく拭いてからドライヤーを使った。	97%	98% ↑	100% ↑	98% ↓
冷蔵庫の扉を開ける回数・時間を少なくした。	93%	94% ↑	94% →	97% ↑
お湯や水を流しっぱなしにしないで、こまめにとめた。	96%	97% ↑	97% →	97% →
容器包装プラスチックや雑がみは、ルールどおりに分別して資源回収日に出した。	96%	94% ↓	92% ↓	97% ↑
近場の外出は自動車を使用せず、徒歩・自転車で行った。	90%	97% ↑	89% ↓	95% ↑
ほかのことをするときは、テレビを消した。	97%	95% ↓	97% ↑	94% ↓
冷蔵庫にものを詰め込み過ぎなかった。	87%	89% ↑	94% ↑	94% →
炊飯器は 4 時間以上の保温をしなかった。	85%	92% ↑	91% ↓	90% ↓
トイレの暖房便座の温度を低くした。または電源を切った。	91%	85% ↓	92% ↑	87% ↓
お店では手前にある商品を購入した。（てまえどり）	79%	85% ↑	88% ↑	87% ↓
買い物する時、レジ袋をもらわなかった。	73%	77% ↑	71% ↓	82% ↑
エアコンを適切に使用した。（目安：夏 26～28℃/冬 22～24℃）	78%	90% ↑	97% ↑	81% ↓
野菜は旬のものやなるべく近場で作ったもの、国産品を買った。	69%	73% ↑	70% ↓	77% ↑
ふだんより 1 時間早く寝た。	36%	45% ↑	36% ↓	44% ↑
達成率の平均	84.98%	87.70%	87.82%	88.63%

（凡例　↑：前回より増加／→：前回と同じ／↓：前回より減少）

2回のエコライフチェックにより、計算上は、**約161kg**の二酸化炭素の発生量を減らすことができました。
これは、杉の木の二酸化炭素吸収量に換算すると、**杉の木約11.5本分と同等の削減効果**です。
※大きく成長した杉の木(樹齢50年、高さ約20～30m)は、年間14kg-CO2の二酸化炭素を吸収するとされています。
また、電力量に換算すると約359kWh、**電気代にして約10,770円節約**できたことになります。
(CO2 排出係数：0.451kg-CO2/kWh、電気単価：30 円/kWh で計算した場合)

社員一人ひとりが各家庭で削減できる CO2 量は微々たるものかもしれませんが、地球温暖化抑制のために何ができるかを常に意識しながら生活することは、非常に重要です。
環境マインド醸成のため、今後も定期的にエコライフチェックを実施していきます。

5．環境関連法規等の遵守状況確認・評価、違反・訴訟等の有無

当社に適用される主な環境関連法規と遵守状況は下記のとおりです。
関係当局からの違反等の指摘・訴訟は過去３年間ありません。

	法律・条例・その他　名称	適用事項	遵守評価
1	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物の適正処理 産業廃棄物収集運搬処分業者との契約 マニフェストの管理	遵守
2	東京都廃棄物条例	産業廃棄物を生じる場合は、産業廃棄物管理責任者を選任	遵守
3	豊島区廃棄物の発生抑制、再利用による減量及び適正処理に関する条例	事業系一般廃棄物の適正処理 事業系一般廃棄物の減量推進	遵守
4	資源の有効な利用の促進に関する法律（リサイクル法）	製品の長期間使用を促進 再生資源化・再生部品化の促進	遵守
5	特定家庭用機器再商品化法（家電リサイクル法）	特定家庭用機器廃棄物の排出抑制 特定家庭用機器廃棄物の適正排出	遵守
6	使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律　（小型家電リサイクル法）	使用済小型電子機器の分別排出 収集・運搬・再資源化を適正に実施し得る者に引き渡すよう努める	遵守
7	国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律　（グリーン購入法）	物品の購入又は役務の提供を受ける場合は、できる限り環境物品等を選択するよう努める	遵守

6．代表者による全体評価と見直しの結果

池袋本社では、業務に応じて完全または交代でテレワークを導入した勤務形態が日常となり、社内従事人数はコロナ前と比較して半数近く減少しました。

電気使用量・用紙使用量・廃棄物排出量は 2020 年度以降大幅な増加はなく低い水準を保っています。今後も、現状維持を大前提として“前年度より悪化させない”精神で、日常で取り組み可能な環境活動を地道に継続していきます。

2021 年度から環境経営目標に加えた「働き方改革の推進」は、ソフトウェア業界の特性を生かして全社員の 6 割がテレワークを導入しており、その影響もあって全体的には平均残業時間が減少しています。しかし、残業が多い社員は一定数存在するため、業務を平準化できるかが今後の課題のひとつです。

一般的に長時間労働が多いと言われているソフトウェア業界ですが、業務の効率化を図り、労働時間を適性化することで、エネルギーや資源の消費削減に貢献するだけでなく、顧客・従業員双方の満足度向上につながるような「働き方改革」を引き続き推進していきます。

7．次年度以降の目標と取組内容

引き続き、2021 年度の実績値を【基準値】とします。
１～５の目標では、基本的には現状維持を目指しつつ"前年度より悪化させない"目標を設定します。
６の「働き方改革の推進」では、残業時間・有休取得数を適切に管理し労働時間の適正化に取り組みます。

環境経営目標	基準	短期目標	中長期目標	
	＜2021 年度＞ 2021 年４月～ 2022 年３月	＜2024 年度＞ 2024 年４月～ 2025 年３月	＜2025 年度＞ 2025 年４月～ 2026 年３月	＜2026 年度＞ 2026 年４月～ 2027 年３月
1．CO2 排出量削減 上段：電気使用量(kWh) 下段：CO2 排出量(kg-CO2)	22,608 10,196.21	**21,800** **9,831.80**	現状維持	現状維持
2．用紙使用量削減 用紙使用量(枚)	19,896	**18,500**	現状維持	現状維持
3．廃棄物排出量削減 廃棄物排出量(kg)	155.0	**120.0**	現状維持	現状維持
4．グリーン購入推進	購入分の 85.7% (48 品/56 品中)	**購入分の 86.0%**	現状維持	現状維持
5．環境マインドを持つ社員の養成	・教育(年１回) ・エコライフチェック (自己評価)	**・教育(年１回以上)** **・エコライフチェック** **(自己評価)**	・教育(年１回以上) ・啓蒙活動 (内容検討中)	・教育(年１回以上) ・啓蒙活動 (内容検討中)
6．働き方改革の推進 平均残業時間削減(h)	206.2	**130.0**	・労働時間適正化	・労働時間適正化

【注記】
＊ １．について ： CO2 排出係数は下記で計算しています。
《 0.451kg-CO2/kWh（東京電力エナジーパートナー 2021 年度 調整後排出係数）》
＊ ４．について ： 業務必需品である PC 付属品（マウス・セキュリティワイヤー・PC バッグ）の三品目については『加算除外品目』に指定し、購入品目数から除外します。
アスクルオリジナル商品のうち、アスクルが定めた環境視点に対応している商品は、グリーン商品として計上します。（参考 URL： https://askul.disclosure.site/ja/themes/92）

次年度の環境経営計画は、基本的に今までの活動内容を継続します。

環境経営目標	環境経営計画
1．CO2 排出量削減	空調温度管理の徹底（夏季:26～28 度、冬期:22～24 度） 無人エリアの消灯、昼休み時間の一部消灯を励行 PC の適切な電源管理、新規 PC の導入
2．用紙使用量削減	両面・集約機能を積極的に活用するよう注意喚起 無駄な印刷やコピーをしないよう注意喚起 可能な限りペーパーレス化を推進
3．廃棄物排出量削減	廃棄物の分別を徹底（可燃・不燃・資源の分別、ﾍﾟｯﾄﾎﾞﾄﾙｷｬｯﾌﾟの回収） 機密書類以外は極力シュレッダーせずリサイクル処理するよう注意喚起 不要 PC を適切にリユース・リサイクルする
4．グリーン購入推進	文房具・什器は環境配慮型商品の購入を推進 非グリーン商品について、アスクル以外でグリーン購入が可能か調査
5．環境マインドを持つ社員の養成	年 1 回以上の環境教育 実態の自己評価（エコライフチェック）
6．働き方改革の推進	残業時間と有休取得数の把握 全体の平均残業時間を算出し、適切に管理

― 以上 ―